

日時：2024年5月30日（木）19:10～21:12

会場：オンライン

出席者（以下、敬称略）：有光興記（理事長）、澤田匡人（副理事長）、稲垣勉（事務局長）、阿部恒之、伊藤義徳、内山伊知郎、大竹恵子、木村健太、蔵永瞳、佐藤徳、白井真理子、鈴木まや、中村真、成田健一、藤村友美、一言英文、武藤世良

委任：岩佐和典、大平英樹、北村英哉、樋口匡貴、山本恭子

【審議事項】

1. 会費未納による除名

- ・有光理事長より、資料に基づき、会費未納者の確認が行われた。3年間以上の会費未納となっている会員の除名が承認された。

2. 2023年度の決算案

- ・有光理事長より、資料に基づき、2023年度の収支決算報告および谷口高士監事、村田監事による監査の結果が提示され、承認された。
- ・これに関連して、両監事の先生方から、黒字が出ていることから、年会費を下げるなどして会員に還元すべきではないかという指摘があったなどが報告された。併せて、本年度の黒字は感情心理学研究を年度途中で3号体制から2号体制に変更したためであること、来年度以降の支出は予定通りとなることが見込まれることもあり、会費の値下げを含めて慎重に検討することが報告された。

3. 2024年度の予算案

- ・有光理事長より、2023年度の予算案について説明され、承認された。

4. 2023年度（第31回）大会（人間環境大学）会計報告

- ・伊藤理事（第31回大会実行委員長）より、2023年度（第31回）大会の会計報告がなされ、承認された。

5. 大会開催

- ・有光理事長より、2025年度（第33回）大会はライトキューブ宇都宮（大会実行委員長：木村理事）にて開催することが提案され、承認された。また、2026年度大会および2027年度大会についても、すでにお引き受けいただける見通しがついていることが報告された。

6. 組織運営におけるジェンダー平等について

- ・蔵永理事より感情心理学会の理事において、女性が占める割合を上げることについて意見聴取があった。審議の結果、他学会における会員向けの文章などを参考に、本学会も選挙等の際にジェンダーバランスを考慮して投票いただけるよう、文言の準備を進めていくことが承認された。

7. 「大会実行委員長」の呼称について

- ・有光理事長より、大会を運営する委員長の呼称は様々なものが使われてきたが、今後は日本感情心理学学会年次大会規程（第2条）のとおり、大会実行委員会委員長（以下、大会実行委員長と略）という呼称に統一することが提案され、審議の結果、承認された。

【報告事項】

1. 会勢報告

- ・有光理事長より、資料に基づき、現在の会勢が報告された。

2. 各委員会報告

- ・学術プログラム委員会（年次大会／セミナー／出版）

木村委員長より、資料に基づき、学術プログラム委員会活動および第31回大会のプレカンファレンス等についての報告が行われた。

武藤理事（国際化担当）より、出版および国際化について検討を進めている旨、報告があった。

- ・機関誌刊行委員会

特に報告事項なし

- ・感情心理学研究編集委員会

佐藤編集委員長より、編集委員会活動に関して、学会誌への投稿数および審査状況の推移、編集状況、編集委員（任期満了、新規就任）などについて報告があった。また、4月よりプレプリントの投稿を受け付けるようにした旨、あらためて報告があったほか、優秀論文賞に副賞（奨励金）を付けることに関する検討依頼があった。

- ・エモーション・スタディーズ編集委員会

藤村副委員長より、編集委員会活動に関して、ESの発行状況、編集状況編集委員（任期満了、新規就任）などについて報告がなされた。

- ・倫理委員会

特に報告事項なし

- ・ニューズレター担当

蔵永理事より、毎月のニューズレター刊行にあたり、一言理事・武藤理事から情報提供をいただいていることや、事情により担当が難しい際に白井理事にも協力をいただいていることの報告と謝意が伝えられた。また、今後の分担体制について報告があった。

3. 役員選挙について

- ・有光理事長より、本年度は改選の時期であることと、選挙は郵送で実施予定であること、9月1日公示、30日締め切りの予定であることが報告された。また、理事決定後に、理事長選挙を実施予定であり、12月までに決定予定であることが併せて報告された。

4. 表彰関係

・有光理事長より、優秀論文賞および大会発表賞、精励発表賞の各賞について報告がなされた。受賞者は以下の通りである。

・大会発表賞

・優秀研究賞：野崎 優樹先生（共著者：小林 亮太先生）

題目：道具的動機に基づく他者の怒りの調整に関する日米比較研究

・優秀研究賞：中井（松尾）和弥先生（共著者：大浦 真一先生）

題目：「温かい」画像刺激はアタッチメントの状態安定性を増幅させる—Security Priming に関する Attachment Affective Picture System の利用可能性の検証—

・若手優秀研究賞：小林 亮太先生（共著者：本多 樹先生）

題目：経験サンプリング法と質問紙尺度により測定された interoceptive attention の関連—Murphy et al. (2019) の 2×2 モデルの部分的検証—

・若手優秀研究賞：櫃割 仁平先生（共著者：野村 理朗先生）

題目：嗅覚イメージと匂いプライミングが俳句の美的評価に与える影響

・若手優秀研究賞：佐藤 未奈先生（共著者：関谷 大輝先生）

題目：これは冗談だって伝わっていますよね！？—不適切な冗談の発言場面において起きる透明性の錯覚の実証—

・精励発表賞：北村英哉先生，稲垣勉先生

【懇談事項】

1. 2025 年度の大会開催について

・有光理事長より、2025 年度大会は会場を借り、一部を業者に依頼する形で開催する予定である旨と、大会の予算については学会からの補助を増やす形で対応する旨、説明があった。

2. 年次大会規程の改正について

・有光理事長より、年次大会規程の改正について意見聴取があった。懇談の結果、改正の方向で検討するが、本理事会内での審議は行わず、文言等を含めて慎重に検討することが確認された。

以上